

## 「リベラルアーツ推進に強力指南書 国際基督教大が実践成果出版」

専門化の弊害が顕在化しつつある日本の大学の中で開学時からリベラルアーツ重視の教育を堅持している国際基督教大学が、最新の実践成果を詳細に紹介した本「リベラルアーツという波動」を出版した。日本の大学で取り入れているのはまだ一部だが、リベラルアーツに対する関心は、近年、国内外で高まっている。リベラルアーツ教育を導入あるいは強化しようとしている日本の大学にとって、強力な指南書になるとみられる。



利用無人機拍摄的 ICU 校园（照片由 ICU 提供）

### 専門化した教育の弊害

15 歳を対象にした経済協力開発機構（OECD）の 2006 年の学習到達度調査 (PISA) で、日本の生徒の読解力が OECD 加盟諸国の平均より劣ることが分かった。高校時代から理系志望と文系志望に早々と分かれてしまい、受験科目しか勉強しようとしないう傾向がますます強まっている。リベラルアーツに対する日本国内の関心の高まりは、背景にこうした危機意識がある。9 月に出版された「リベラルアーツという波動—答えのない世界に立ち向かう 国際基督教大学の挑戦」（発行：学研プラス）の編者は、国際基督教大学で教養学部長や宗教音楽センター長などを務めた伊東辰彦名誉教授と、心理学 departments 長やアカデミックプランニング・センター長などを務めた森島泰則教養学部教授。第 1 章にも、専門的に分化した教育では、複雑に絡み合った問題や既存の枠組みを超えた課題に対応しきれない、という危機意識が記されている。



リベラルアーツ教育の方法については、次のように説明されている。「学問分野として教えられるものではなく、教育的環境であり、その共同体に集まった教員、学生、スタッフが互いの中で日常的対話が行われることの価値を意識することである」。さらに「話しっぱなし、聞きっぱなし、書きっぱなしでは決して得られない深い理解と満足につながる」とも。「リベラルアーツという波動」の内容は、正にこうした特徴を忠実に実践した構成となっている。

### 少人数教育を徹底

第3章で詳しく紹介しているのは、伊東名誉教授が2017年度の秋学期（9～11月）に担当したリベラルアーツ・セミナーの様子。リベラルアーツ・セミナーは、国際基督教大学の開学以来の特徴である少人数教育と、1年生に対する教育をさらに強化する目的で2017年度から一般教育科目の中に新設された。内容は担当教員によって異なる。一人の教員が担当する学生の数は15人以内に限られる。

伊東名誉教授が担当したセミナーのテーマは「音楽の意義」。正味210分のセミナー形式の授業を週1回、計10回続けるコースは、初回と最終回を除き、毎回、伊東氏が指定した内外の音楽家たちの著書を読んだ学生たちが1人ずつ自分の書いたエッセイを読み上げる。それに対し学生全員が意見や質問を述べ合い、伊東氏も加わって全員で議論する。

この議論を経て学生はエッセイを書き直し、次回にまた同じように発表、議論を繰り返す。一つの著書にかかる回数は2回だから、学生たちは4冊の異なる著書に対してそれぞれ2回、さらに最終日に提出する最終エッセイと合わせ、9回エッセイを書くことになる。



「リベラルアーツという波動」出版記念会であいさつする伊東辰彦国際基督教大学名誉教授

第2章には、国際基督教大学生ではなく提携校である広島市の広島なぎさ中学校・高等学校と連携したユニークな試みが紹介されている。森島泰則教授が広島に出向き、高校が校内で募集した14人の高校生にそれぞれ三つの質問を考えてもらった。「考えてもすぐには答えの出ない問いを考えることの価値を一緒に体験してほしい」。こうした呼びかけに応じた高校生に、答えることが難しい問いを考えることが、よりよい社会、平和な世界を実現する上で乗り越えなければならない壁であることを理解してもらおうのが狙いだ。

高校生たちが話し合っ最終的にまとまった質問は「もしこの世に何の争いもなく平和な世界が続いていたら、『争い』という定義は生まれていたのか」、「人間には生きる目的があるのか？ もし無いのなら、人間は生き続けることができるのか？」など四つ。これらの質問がどのようにしてつくられ、これに対し国際基督教大学の教員がどのような答えを示したか。その経緯がよく分かるよう森島泰則教授が、一つ一つの質問ごとに詳しく報告している。



「リベラルアーツという波動」出版記念会であいさつする森島泰則国際基督教大学教授(左)

### 2000年以降北米以外にも拡大

リベラルアーツはそもそもどのように大学教育に取り入れられたのか。本の中には次のように書かれている。「世界に 547 あるリベラルアーツ教育プログラムのうち、70.6%は北米に集中しているが、アジア地域は世界第二位のシェアを誇り、少なくとも 69 のプログラムがあると言われる。また北米以外に位置するリベラルアーツ教育プログラムの 44% は 2000 年以降にできたものと言われており、リベラルアーツ教育が北米以外の地域に拡大したのは、比較的最近であることが分かる」。国際基督教大学は日本で最も早くからリベラルアーツ教育を実践しただけでなく、北米以外の地域を見渡しても数少ない大学のひとつということだ。

2000 年以降に北米以外の地域にも増えたのはなぜか。大学が特定分野、特に実用的な応用分野を重視する傾向を強めたことで、細分化された特定分野を深く学べば学ぶほど知識領域が狭まる。こうした弊害が生じている現状を、本は指摘している。これは日本をはじめとするアジアや欧州だけでなく、リベラルアーツ教育プログラムの 71% が集中する北米も例外ではないという意外な事実も明らかにされている。米国で有数のリベラルアーツカレッジといわれるベニントン大学のエリザベス・コールマン学長が、こうした現状を批判したことが、本の中で紹介されている。



コールマン学長(当時)の批判は2009年5月に行われた講演でなされた。TED Conferences LLCという米国のメディア組織が公開している無料のオンライン講演サイトで講演の内容を読むことができる。「米国にリベラルアーツ教育はもはや存在しない。少なくとも真のリベラルアーツ教育はこの国に存在しない。私たちはリベラルアーツを専門化してしまい固有の特徴である 応用性の幅広さと 市民参画を行う高い能力をもはや提供し得なくなっている。学問分野は ますます細分化され 専門的で曖昧な知識がいつそう重要視されている」。10年前に米国有数のリベラルアーツカレッジの学長が示した危機意識は、2000年以降、米国以外の地域にも拡大していった、ということだろう。

### 出版記念会開催

「リベラルアーツという波動」が出版された半月後の10月5日、国際基督教大学内で発行を記念する集まりが開かれた。本に登場する広島なぎさ中学校・高等学校の校長や、国際基督教大学卒業生や学生たちも参加したなごやかな会だ。「リベラルアーツの歴史を説明したものはあるが、なぜやっているか、どのように実践しているかを書いた本はない」。伊東名誉教授から、発行の動機が明かされた。「困難なときでも一つ一つ課題に向き合うことが大事、と分かった」、「毎回エッセイを書かされたが、書きたいことを自由に書いてよといわれ、かえって頭を悩ました。今はありがたい経験だったと思っている」。伊東名誉教授ののリベラルアーツ・セミナーを受講した学生たちからは、それぞれセミナーを受講してよかったという感想が続いた。



伊東辰彦名誉教授のリベラルアーツ・セミナーを受講した感想を述べる国際基督教大学

## 生たち(立っている3人)

日文 小岩井忠道(JST 客観日本編集部)

### 関連サイト

国際基督教大学プレスリリース「書籍『リベラルアーツという波動』を出版」

<https://www.icu.ac.jp/news/1909191300.html>

国際基督教大学「なぜ、リベラルアーツに力をそそぐのか？」

[https://www.icu.ac.jp/whyicu/page\\_03.html](https://www.icu.ac.jp/whyicu/page_03.html)

広島なぎさ中学校・高等学校ホームページ

<http://www.nagisa.ed.jp/high/>

### 関連記事

2019年04月11日 亚洲各大学普及服务学习（上）：召开国际会议报告成果

[http://www.keguanjp.com/kgjp\\_jiaoyu/kgjp\\_jy\\_gdjy/pt20190411060001.html](http://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/kgjp_jy_gdjy/pt20190411060001.html)

2019年04月12日 亚洲各大学普及服务学习（下）：ICU 公开课程指南，期待在日本普及

[http://www.keguanjp.com/kgjp\\_jiaoyu/kgjp\\_jy\\_gdjy/pt20190412060000.html](http://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/kgjp_jy_gdjy/pt20190412060000.html)

2019年04月09日 “世界大学排行榜日本版 2019”出炉，重视“教育”和“国际化”的公・私立大学斩获高评价

[http://www.keguanjp.com/kgjp\\_jiaoyu/kgjp\\_jy\\_gdjy/pt20190409060002.html](http://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/kgjp_jy_gdjy/pt20190409060002.html)

2018年12月07日 「5年本硕连读，日本国际基督教大学进一步加强博雅教育」

[http://www.keguanjp.com/kgjp\\_jiaoyu/kgjp\\_jy\\_gdjy/pt20181207060003.html](http://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/kgjp_jy_gdjy/pt20181207060003.html)

2015年12月8日 Science portal 国际基督教大学校长日比谷润子“全球招生，改变入学考试制度，扩充学生宿舍” [\[网址\]](#)

2015年7月22日 Science portal 国际基督教大学教养系主任伊东辰彦 “报考考生是重要客人，新导入的入学考试方法见成效” [\[网址\]](#)

2015年6月10日 Science portal 国际基督教大学教养系艺术科学科教授沟口刚 “博雅教育也是重要的科学教育” [\[网址\]](#)

2012年4月5日 国际基督教大学校长日比谷润子 “冒牌学期制” [\[网址\]](#)

2009年4月27日 Science portal 「国际基督教大学校长铃木典比古 “大学教育亟需变革-彻底实现博雅教育” 第2回 “为何现在实施博雅教育” [\[网址\]](#)

2007年12月17日 Science portal 国际基督教大学校长铃木典比古 “21世纪更应实施重视学识的大学教育” [\[网址\]](#)

2007年11月14日 Science portal 国际基督教大学教学改革本部长日比谷润子 “国际基督教大学（ICU）的教学改革” [\[网址\]](#)

2007年10月24日 Science portal 入学后再选专业，国际基督教大学实施新制度 [\[网址\]](#)